

平成30年度博物館施設評価集計シート

施設名 さきたま史跡の博物館

1. 数値目標による評価

(1) 全館共通項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達
昨年度2～3月分の数字を足して算出	達成見込

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	112,100	人	達成	基準値:112,099人 目標参考値:112,099人	
				114,734	人			
2	利用状況	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	110,780	人	達成見込	基準値:110,778人 目標参考値:110,778人	
				110,445	人			
3	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	730	件	達成	基準値:518件 目標参考値:728件(前年実績値)	
				915	件			
4	利用状況	経営努力	観覧料および事業等収入額	13,684,000	円	達成見込	当該年度予算計上額	
				12,031,980	円			

(2) 館別独自項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達
昨年度2～3月分の数字を足して算出	達成見込

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	入館者	企画展・テーマ展の入場者数	57,350	人	達成見込	基準値:57,350人 目標参考値:57,350人	
				56,790	人			
2	利用状況	出前授業	出前授業の実施校数	18	校	達成	基準値:15校 H29(35校)は特殊かつ過大なためH28実績を目標とした	
				30	校			
3	利用状況	団体利用	学校団体の博物館利用校数	239	校	未達	基準値:239校 目標参考値:239校	
				222	校			
4	資料管理	資料点検	年間の点検資料数	544	点	達成見込	基準値:529点 目標参考値:544件(前年実績値)	
				570	点			
5	満足度	常置アンケート	アンケートでの展示満足度	80	%	達成	8割の満足	
				94.7	%			
6	満足度	講座等アンケート	アンケートでの講座等受講者満足度	80	%	達成	8割の満足	
				88.1	%			

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<p>①奥の山古墳及び二子山古墳発掘調査、鉄砲山古墳及び二子山古墳整理作業、丸墓山古墳園路環境整備工事</p> <p>②埼玉古墳群保存活用計画策定</p> <p>③収蔵資料等の保存と公開・活用</p> <p>④テーマ展「律令国家がやってきた！ー交通・流通から見た奈良期の埼玉ー」、最新出土品展「地中からのメッセージ」、企画展「埼玉の古墳 3ー北足立・北埼玉・南埼玉・北葛飾ー」、ほるとま展2018、テーマ展「埼玉の平安時代(仮称)」</p> <p>⑤さきたま講座をはじめとする生涯学習事業の実施</p> <p>⑥出前授業「なるほど古墳時代」と自由研究相談窓口「調べて分かる埼玉古墳群」の実施</p> <p>⑦まが玉づくりをはじめとする各種体験事業の実施</p> <p>⑧オリパラおもてなしミュージアム；展示解説等の多言語化、音声ガイド、古代体験用衣装制作、Wi-Fi環境整備</p> <p>⑨利用促進のための広報活動</p>
事業の実施状況と過程	<p>①奥の山古墳発掘調査終了。二子山古墳発掘調査中。鉄砲山古墳及び二子山古墳整理作業中。丸墓山古墳園路環境整備工事中。</p> <p>②埼玉古墳群保存活用計画の最終案ができ、決裁の準備中。</p> <p>③国宝武蔵埼玉稲荷山古墳出土品の公開。館内IPM作業(5月、6月、9月、1月)</p> <p>④テーマ展17,172人、最新出土品展13,569人、企画展15,066人、ほるとま展4,824人(～1/31)</p> <p>⑤さきたま講座9回700人、古代体験17回547人など</p> <p>⑥出前授業30校1,302人、自由研究相談窓口611人</p> <p>⑦まが玉セット販売個数10,045個(昨年度年間13,185個)</p> <p>⑧古代体験用衣装制作は納品済、それ以外は実施中。</p> <p>⑨「まが玉づくりと国宝見学」チラシ配布(県内小学6年生対象、7月)、その他随時小学生向けチラシを配布</p>
事業の成果	<p>①今後、史跡整備を進めていく上で必要な情報が得られるとともに、見学者のための安全施設を整備した。</p> <p>②将来にわたっての古墳群の保存・活用の基本方針を明文化することができた。</p> <p>③博物館の収蔵資料を適切に保存するとともに、広く公開して有効活用を図った。</p> <p>④県内の古墳や考古資料について様々な切り口で展示し、多くの観覧者に学び楽しんでもらった。</p> <p>⑤講座や体験など様々なスタイルで、県民に学び楽しむ機会を提供できた。</p> <p>⑥博物館と学校教育との密接な連携を図ることができた。</p> <p>⑦古墳の出土品を題材としての体験等で多くの人に楽しんでもらった。</p> <p>⑧今年度をもって、当館の「オリパラおもてなしミュージアム」の環境整備が完了した。</p> <p>⑨的を絞った広報により、ほぼ予想どおりの効果(来館者)を得ることができた。</p>

基礎データ

職員数 (学芸員数)	25人 (9人)	総予算額 (人件費を除く)	34,819,000	職員一人あたりの県民人口 (平成30年度)	29.2万人
収蔵資料総点数 (H30.3末現在)	2,303箱	事業経費 (上記の内数)	21,130,000	利用者一人あたりのコスト (平成29年度)	320円
平成29年度 収集資料点数	44箱	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	14,207,000 7,514,000円	県民人口に対する利用者割合 (平成29年度)	1.53%

(注)平成30年度4月1日現在の埼玉県推計人口は7,310,878人である

2. 全館共通項目チェックリスト

		評価基準	
		完了または順調に進捗していて問題がない	A
		着手状態ないし課題が残されている状態	B
		未着手状態	C
項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の収集	① 資料の収集方針、収集計画を策定しているか	A	館ミッション
	② 収集方針、収集計画に基づき資料収集を行っているか	A	同上に基づく
	③ 特色あるコレクションの形成に努めているか	A	S43以来継続調査
	④ 有形資料に限らず、映像資料や情報資料等も積極的に収集しているか	A	資料調査時に適宜収集
	⑤ 収集した資料についての調査を実施し、調書を作成しているか	A	整理・報告書作成
	⑥ 客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか	-	該当なし
	⑦ 規定の資料台帳を整備し、資料を登録しているか	A	収蔵資料管理要綱
	⑧ 規定の収集資料ラベルを設け、資料に添付しているか	A	同上
	⑨ 資料の基本データ記録を作成し管理しているか	A	同上
	⑩ 収集時に資料の殺虫処理・クリーニングを適切に行っているか	A	忌避剤散布 収蔵庫清掃
資料の保存	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項が整備されているか	A	収蔵資料管理要綱
	② 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項を職員に周知し、それに基づいた資料の保存管理を実施しているか	A	学芸会議等で周知
	③ IPMの考えに基づいた資料の保存管理について、最新情報の収集や研修を行っているか	A	東文研研修等に参加
	④ 資料特性に即した適切な収蔵施設を整備しているか	A	温湿度管理
	⑤ 収集資料の清掃・修理等を適切に行っているか	A	収蔵庫定期清掃
	⑥ 有害生物・室内ガス・光種等のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか	A	モニタリング実施
	⑦ 資料の殺虫殺菌処理を適切に行っているか	A	忌避剤散布 収蔵庫清掃

管理	⑧	温湿度の日常的な管理・記録化等を行っているか	A	データロガー利用
	⑨	光量の管理を適切に行っているか	A	適正照明器具の使用
	⑩	資料の所在確認作業を定期的に行っているか	A	収蔵庫定期清掃時実施
	⑪	資料の劣化状況を定期的に確認しているか	A	収蔵庫定期清掃時実施
	⑫	資料の修復や保存処理等の措置を計画的かつ必要に応じて行っているか	A	3か年計画で実施
	⑬	借用資料・寄託資料の更新手続きは適正に行われているか	A	承諾書等の更新
資料の保存管理	⑭	資料のデータベースを整備するとともに、情報を適宜更新しているか	A	検索システム利用
	⑮	収蔵庫の入退室管理簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	収蔵資料管理要項
	⑯	収蔵資料の出納簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	同上
	⑰	収蔵庫の鍵を適正に管理しているか	A	同上
資料の活用	①	収蔵資料の活用に関して規程・手続きを整備しているか	A	博物館条例管理規則
	②	収蔵資料の活用に関する手続き等を公開しているか	A	HPに公開
	③	収蔵資料を展示に活用しているか	A	適宜活用
	④	収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか	A	館外貸出1,110点
	⑤	収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等・原板利用等)に適切に対応しているか	A	特別利用1,986点
	⑥	資料の基礎情報・解説付目録(紙・電子)を適宜作成・更新・公開しているか	A	HP情報更新
	⑦	収蔵資料をホームページ等で紹介・更新しているか	A	主要資料を公開
常設展示	①	資料の展示環境を適切に管理しているか	A	温湿度管理、忌避剤散布
	②	展示関連のサイン・パネル等がわかりやすいか	A	内容・文字量・フォントに配慮
	③	展示室内に監視員や監視カメラ等を配置しているか	A	監視・警備員配置
	④	展示情報を適宜修正・更新しているか	A	適宜実施
	⑤	展示設備等を適宜点検しているか	A	開館中適宜巡視実施
	⑥	展示ガイド等を作成しているか	A	ガイドブック刊行
	⑦	解説リーフレット等を作成しているか	A	6種類配架
	⑧	展示解説等を適宜実施しているか	A	展示解説等実施
	⑨	観覧者アンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	アンケートの集計・分析
	⑩	アンケート結果に基づいた展示改善を実施しているか	A	分析後対応
	⑪	県民に対し展示情報を適宜発信しているか	A	HP公開・催事案内配布
学習支援事	①	事業情報を利用者に広く発信しているか	A	HP/彩の国だより等
	②	多様な媒体による参加申し込み方法を用意しているか	A	電話・電子申請・来館時等
	③	多様な参加者を想定したプログラムを用意しているか	A	子供・一般対象

業	④	参加者に対しサポート体制を整備しているか	A	体験ボランティア配置
学習支援事業	⑤	事業実施にあたり参加者の安全に配慮しているか	A	説明・注意喚起・保険加入
	⑥	参加者を対象としたアンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	参加者アンケート実施
	⑦	アンケート結果に基づいてプログラムの開発・改善を行っているか	A	アンケートの分析
	⑧	来館者用の図書・情報コーナーを設けているか	A	体験工房・情報コーナー
	⑨	学芸員実習やインターンシップの学生を受け入れているか	A	学芸員実習・インターンシップ
県民との連携・協働	①	ボランティア制度を導入しているか	A	体験・解説・環境ボランティア
	②	ボランティアの活動に関する規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア活動要領
	③	ボランティアの募集・認定の規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア設置要綱
	④	ボランティアの研修システムが確立され、適切に実施されているか	A	研修5回実施
	⑤	ボランティアの活動成果が公開されているか	A	HP・館報に掲載
	⑥	友の会、NPO等が館事業に参加する機会を設けているか	A	秋祭りに地元NPO参加
	⑦	地域社会で実施されるイベント等に館として積極的に関わっているか	A	さきたま火祭り・鉄剣マラソン
調査研究活動	①	調査研究テーマを定めているか	A	年度当初にテーマ設定
	②	調査研究のための予算措置等に努力しているか	A	紀要印刷費・調査旅費
	③	調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加し、館内に情報提供しているか	A	研修会等参加
	④	収集している資料に関連する専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	研究会等参加
	⑤	資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	A	研修会等参加
	⑥	地域貢献の視点から、館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	A	適宜実施
	⑦	学芸員個々の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	研究会等参加
	⑧	他館や他機関との間で共同研究等を行っているか	A	古代歴史文化協議会
	⑨	調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	A	講座・企画展・解説・紀要等
	⑩	調査研究の成果を、社会貢献の視点から国、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか	A	遺跡報告会
施設・アメニティー	①	施設の維持・改善についての計画を策定しているか	A	優先順位と予算で実施
	②	展示室、収蔵庫などで耐震対策を行っているか	A	重り・テグス等で転落防止
	③	危機管理マニュアルを整備しているか	A	危機管理マニュアル
	④	防災・救急訓練等を定期的に行っているか	A	2月実施予定
	⑤	休憩コーナー、授乳コーナー、喫茶コーナー等を設置または状況により対応しているか	B	館内休憩コーナーのみ
	⑥	レンタル用の車椅子、ベビーカーは整備されているか	A	車いす4・ベビーカー1
施	⑦	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	A	施設・設備点検実施
	⑧	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	A	障害者用8台

設・アメニティー	⑨	手すり、点字ブロック、音声ガイドなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	B	階段手すり設置済
	⑩	利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか	A	ピクトサインを活用
	⑪	館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	A	入館のしおり英語版
	⑫	利用実態に応じて開館時間を設定しているか	A	夏期開館時間延長
	⑬	便益施設として利用者数に見合った施設・設備を確保しているか、または状況に応じて対応しているか	A	大型バス・普通車295台
施設の活用	①	施設利用のための要項、マニュアルを策定しているか	A	管理規則
	②	施設利用のための情報を公開しているか	A	HPIに利用案内
	③	施設を一般の利用に提供しているか	A	講堂・レストハウス
	④	施設を学校団体等の利用に提供しているか	A	講堂・レストハウス
	⑤	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	A	さきたま秋祭り等
	⑥	地域や他施設・機関・学校等との連携を図っているか	A	行田市郷土博物館等

3. 館別独自項目チェックリスト

		評価基準		
		完了または順調に進捗していて問題がない	A	
		着手状態ないし課題が残されている状態	B	
		未着手状態	C	
項目	チェック内容	評価(A~C)	備考	
史跡整備事業の実施と活用	①	外部からの指導・助言を得ているか。	A	整備協議会
	②	全体的な整備計画を策定しているか。	A	H18基本計画策定
	③	情勢の変化に応じて、適宜見直しを図っているか。	A	整備協議会
	④	地元との定期的な意見交換を図っているか。	A	古墳公園づくり連絡会議
	⑤	担当職員を史跡関連の研修に参加させているか。	A	遺跡環境整備会議
	⑥	市町村等への整備研修会を開催し、技術や手法の普及を図っているか。	B	検討継続
	⑦	調査の現地見学会を実施しているか。	A	2月2日二子山古墳
	⑧	史跡や整備に関する講座・講演会を行っているか。	A	考古学講座 遺跡査報告会
	⑨	整備事業の成果を各媒体を通じて広報しているか。	A	報道発表、当館H.P
	⑩	整備事業の成果を展示等を通じて公表しているか。	A	最新出土品展
公園整備と利活用	①	全体的な整備計画を策定しているか。	A	県土整備部策定
	②	公園利用についての諸規定があるか。	A	古墳公園利用規定
	③	公園が地域に利・活用されているか。	A	さきたま火祭り等
	④	外部に利・活用を呼び掛けているか。	A	観光情報誌等 情報提供
	⑤	担当職員を公園に関連する研修に参加させているか。	A	遺跡環境整備 会議
考	①	考古の専門館としての体験メニューを複数用意しているか。	A	まが玉づくり等9種

考古体験事業の実施	②	安全に配慮しているか。	A	説明時に注意喚起等
	③	アンケートを実施して、参加者の意向を把握しているか。	A	事業ごとに実施
	④	適宜改善を図っているか。	A	適宜図っている
	⑤	外部からの出張事業の要請にもこたえているか。	A	出前授業実施
	⑥	様々な媒体を通じて情報を発信しているか。	A	情報発信件数 451件
	企画展示事業の実施	①	考古の専門館としての企画展を実施しているか。	A
②		最新の考古資料を展示・公開しているか。	A	最新出土品展開催
③		学芸員による展示解説を行っているか。	A	企画展開催時 毎日曜日
④		展示図録・ポスター・リーフレット等の紙媒体を作成しているか。	A	展示ごとに作成
⑤		考古に関する講座・講演会・調査発表会等を開催しているか。	A	関連講座開催
⑥		アンケートを実施して、見学者の意向を把握しているか。	A	常置アンケートに 項目設定
⑦		展示情報を様々な媒体を通じて発信しているか。	A	

総合評価

		達成	未達	達成見込
全館共通	数値目標による評価	1	0	3
各館独自	数値目標による評価	3	1	2

		完了A	課題有B	未着手C
全館共通	チェックリストによる評価	0	0	0
各館独自	チェックリストによる評価	0	0	0

自己評価総括

(1) 全館共通項目

【利用者数・常設展観覧者】 9月までは猛暑・台風の影響で昨年度より利用者・観覧者数が大きく落ち込んでいたが、10月以降、将軍山古墳展示館の通年開館(昨年度は11月後半～2月工事閉館)、企画展や特別公開の好評、マスコミでの紹介、クイズラリーの効果などにより、目標値達成見込みまで持ち直した。

【事業情報の発信】 対マスコミ情報発信を意識的に増やし、それがマスコミの特集取材などを呼び込む好循環となっている。また、子供向け体験等の広報において、内容に応じて地域や学年のターゲットを絞ったチラシの各戸配布を実施し、それが確実なリターンとなって効果を上げている。

【観覧料および事業等収入】 まが玉セット販売はやや頭打ちだが、利用者・観覧者数の増加に伴い全体としては持ち直している。

<p>評価</p>	<p>(2)館別独自項目 【企画展・テーマ展の入場者数】年度後半の企画展「埼玉の古墳3」やほるとま展の内容が好評でマスコミ等でも紹介され、入場者数の目標を達成見込みとなった。 【学校教育との連携】県教委の施策として行田市内の小学校との間で連携のモデル事業を行った。そのため一般の出前授業は受入れを少し抑えたが、それでも目標を大きく超える30校となった。学校団体利用の減少は学校側で授業時間確保のため遠足等を削減している影響と思われる。 【満足度】展示、講座等ともに高い満足度の評価を得ている。講座等はリピーターも多く、常に定員を上回る申込みをいただいている。</p> <p>(3)その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 展示室多言語化、音声ガイド、WiFi等、外国人利用に備えた博物館環境の整備を行った。 ・ 将来にわたっての史跡の保存活用の指針とするため「史跡埼玉古墳群保存活用計画」を策定した。また、史跡指定80年等を記念した特別講演会「さきたま あれから これから」を2月17日(日)に埼玉会館大ホールで開催予定である。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 博物館の機能やサービスの向上 ・ 博物館の利用促進 ・ 史跡埼玉古墳群の適切な保存と多様な活用
<p>対応の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査研究、資料保存など基本的な機能を一層向上させていく。 ・ 埼玉古墳群等の価値を活かしたより魅力的なコンテンツ(展示、講座、体験など)を企画するとともに、効果的かつ積極的な広報を行っていく。 ・ 学校教育や社会教育との効果的な連携を検討し実現していく。 ・ 史跡埼玉古墳群の調査研究、整備を進めるとともに広く情報を発信していく。 ・ 地域のまちづくりや観光振興を視野に入れた史跡活用も検討していく。

評価結果に対するコメント

1. 全体に係る評価

<p>各館協議会委員会の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員体勢が必ずしも十分でない中で事業実施を行い、概ね好調に事業実績を上げており、評価も概ね公正である。ただ、自己評価総括の冒頭に「9月までは猛暑・台風の影響で云々」とあるのはいただけない。異常気象は常態化しており、10月以降は広報等の努力で持ち直しているのだから、年度前半に落ち込んだ人為的原因を客観的に探って記述すべきである。 ・台風など気象条件や災害なども利用者数に影響を与えていると思われるので、天候などと利用者数の関係を分析することも必要であると考えます。 ・新しく策定される「史跡埼玉古墳群保存活用計画」を、今後の博物館活動にも活用するようにしてほしい。 ・学校教育との連携は主に小学校で成果を上げており、人事交流による普及担当職員の充実と献身的な努力が読み取れる。将来的な人材育成を考えると、中長期的には高校や大学との連携が必要で、学習支援事業の⑨の学芸員実習・インターンシップの受け入れはA評価だが、受け入れるのは当たり前でしかも人数は限られるので、目標値が低くせざるを得ないのではないかと。「対応の方向性」としては、実験考古学をベースにした高度な体験学習や高校生のポスターセッションなど、始めは場を貸すだけでもいいから大学の考古研究室や首都圏高校との連携事業の実施を検討してほしい。 ・概ね、目標を達成しており博物館の努力を評価できる。史跡内の施設が安全・安心で利用者の利便性が高まるような空間になるよう努力してほしい。近い将来の目標として展示、講座、体験学習などの有益なコンテンツである電子書籍のような媒体の導入を考えてほしい。学校では電子書籍の一種であるデジタル教科書が導入されてきている。この電子書籍は動画や、音声読み上げ、文字の拡大などの機能があり視覚障害者など便利なものであると思う。 ・「史跡埼玉古墳群保存活用計画」が策定され明文化されたことで、今後の史跡保存活用がさらに円滑に進められることは大変有意義なことである。 ・対マスコミ情報の発信件数が昨年度に比べて、大きく伸びていることから、広報に力を入れていることがよくわかる。しかし、インターネットを活用できない層や世代もいるので、アナログベースの広報も継続してほしい。子供向け体験等のチラシが、各学校に配布され児童にも配られるなど、着実に情報の発信がなされる仕組みが作られている。
--------------------	--

子供向け体験等のチラシが、各学校に配布され児童に配られているなど、着実に情報の発信がなされる仕組みが作られている。

・最近、土偶女子なる言葉をよく耳にする。マスコミの影響もあってか、埴輪に興味をもつ人が増えているようだ。今回の企画展や特別公開は、まさにその流れをうまく掴んだものである。

・登れる古墳、外観を見る古墳、内部がみられる古墳など展示の方法が様々で利用者のニーズに合った楽しみ方ができるところが良い。この3つの展示方法の良さが、来館者により伝わるような発信をして欲しい。特に將軍山古墳は、この時代の埋葬の仕方などがよくわかり興味を引きく。

・今後、授業時間確保や学校統合化による学校数の減少などを踏まえ、学校団体利用の目標値を見直してゆくことも必要になってくるのではないかな。

・さきたま史跡の博物館としての今年度の取り組みは、達成値やチェックリストの評価からみても着実に成果を上げていると思う。

2. 全館共通項目に係る評価

・猛暑や台風などの影響で落ち込んだ来館者数を、クイズラリーなどの工夫で大きく持ち直した点については、高く評価できる(高野委員)。

・評価項目もおおよそ達成しており、たま、上記の要件を勘案しても、公立博物館としても役割を十分に発揮していると考えられる(高野委員)。

・「対応の方向性」について、博物館におけるボランティア活動などについて、学校教育や社会教育の視点から検討することがあげられた。国内では例が少ないが、他国では来館者をサポーターとして有志を募り、博物館運営に部分的に携わる「プロジェクト」として構成するなど、方法論の開発と効果研究が続いている。ぜひ、そうした成果を取り入れつつ、上記の方向性により歩みを進めていただきたい(高野委員)。

評価
小委員
の意見

・「共通チェックリスト」の項目では、アメニティー(休憩コーナー・授乳コーナー・喫茶コーナー等の設置などへの対応)を除き、すべてA評価であり、博物館としての機能を十分に果たす活動を行っているといえる。授乳コーナー・喫茶のコーナー等への対応は、館の構造の変更を伴う可能性があり、予算措置や展示とも関わってくることで予想されるため、早急な対応が難しいことは理解できる。今後の具体的な検討を望みたい(清水委員)。

・共通数値項目からは、未達になった項目はあるが、達成値からみて、博物館として役割を十分に果たしているといえる。未達事項2つは、わずかな未達であるもの(常設展観覧者数)と、前年度実績よりわずかに及ばないもの(収入)である。館別個別項目や「年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等」「共通チェックリスト」「館独自チェックリスト」を通観すると、「共通数値評価」と合わせ、博物館として十分な成果を上げていると評価できる。数値については、未達が生じた要因を館の取り組みや天候などの分析によって探ることは必要だと思う。ただ、数値が第一の評価基準にならないよう、館の内外に主張できるようにすることもまた必要だと考える。数値目標の設定が重視されること自体は理解できるが、社会教育施設である博物館においては、活動の質も数値と同等に評価されるべきであり、そのための仕組みや論理を考える時期にきているのではないかな(清水委員)。

・異常気象によって、来館者数が不安定化することは今後もありえるので、目標値の設定段階でそのような不安定要素を織り込むことも必要ではないかな(清水委員)。

・常設展観覧数及び企画展・テーマ展の入場者数の「未達」については、目標の9割5分を超えた数値という点で評価できるととらえてよいのではないかな。ただし、利用者数が目標数を上回っているなかでの未達である点では、その要因を分析する必要もあるかなと思う(浅倉委員)。

・時代がある程度限定されるという収蔵資料・展示資料の性格から、リピーターを意識した企画展が求められていると感じる。複数回訪れる考古学愛光者の要望などを聞き取れるようなアンケート設問を用意してはどうだろうか(浅倉委員)。